

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400230		
法人名	有限会社 祐康		
事業所名	グループホーム鮎乃里 ハタハタ棟		
所在地	秋田県大館市櫃崎字大道下27-1		
自己評価作成日	令和5年10月 30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを大切に、ご自分のペースで自由に過ごしていただきながら、生活のパートナーとして支えるよう支援している。施設行事を通して、季節感を感じていただきながら、気分転換も図れるよう支援している。負担のない範囲で出来るだけ活動的に過ごせるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年12月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

個別介護計画の内容を実際の業務ではどのように行えば良いのかを示すために手順書を作成しており、どの職員でも同じようなケアができるように、また、新しく入職した職員でもわかりやすいよう配慮されている。ペーパーレス化への取り組みとして、介護記録アプリとタブレットを導入している。入居者ごとにバイタル、喫食や排泄状況等が一目で確認できるようになっている。入居前の1日の食事回数や過ごし方等の生活リズムをアセスメントし、その人らしさを尊重したケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が目につく場所に事業所理念を掲示し、事業所理念を意識した支援を実践している。	日々の申し送りの中で、利用者の変化を情報共有することで、その人らしさを尊重した支援に取り組んでいる。ミーティングの際に管理者、職員それぞれが考えるその人らしさや個別性について、意見を交わしながら支援方法を統一している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民が暮らす民家は、近隣にはなく、地域との交流が難しい環境にはあるが、公民館だよりを定期的にいただいたり、地域の方からお米を購入したり、地域のつながりは意識している。	ホームの向かい側にある田んぼの所有者が榎崎地区住民であることから、お米を購入したり、冬期間の排雪場所として利用させてもらったりと、つながりが継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	なかなか地域の人々に認知症の人の理解や支援方法を伝える事はできていないが、運営推進会議等で認知症の人の理解や支援の方法は伝えるよう意識している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得られた情報や意見をもとにサービス向上に努めている。	会議では、利用や転倒等の状況、活動予定の報告をしている。現在2ユニットのうちあゆ棟を、職員確保等の事情により閉鎖しており、会議の際に人材確保の助言があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議の参加者となっており、協力を得られる関係を築いている。	運営推進会議や電話等により、利用の問い合わせや相談等情報交換の機会が設けられている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体で定期的に身体拘束、虐待をしないケアについて検討している。 不適切な対応等あればお互い注意し合い虐待や身体拘束につながらないように努めている。	身体拘束等の該当する事案は確認されていない。研修の年間計画に基づき、毎月開催する職員ミーティングの際に、様々なテーマに沿って学ぶ機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎日の業務の中で権利擁護に関する必要な情報を収集し、必要があれば関係者と連携するようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始時には、利用者やその家族が理解していただけるよう説明し、それ以降にも不明な点があれば随時対応させていただき、理解・納得してサービス利用できるようにしている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	利用者やご家族から要望が表せるよう、日頃からの関わり方に細心の注意をはらっている。	これまで市外への通院は家族で対応していたが、相談の上職員で付き添いすることになった。家族から、利用料金の内訳や金額の増減、マイナンバーカードの取り扱いについて問い合わせがあり、適宜返答している。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	ミーティングの場や、それ以外の業務中にも職員からの意見を聞き、適切に意見を反映できるよう努めている。	毎月開催する職員ミーティングには経営者も参加し、ホームの状況を確認している。職員から、休憩室の設置についてや除雪への対応、加湿器やウォーターサーバー購入の要望が挙げられ取り入れられている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業務の中でサービス向上につながるような意見交換を積極的に実施している。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談等の場でご本人の要望をゆっくり丁寧に伺い、不安なく安心して生活していけるような関係づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談等の場で、ご家族の要望や不安な事等を傾聴しながら、より良い関係が築けるよう、出来る範囲で最大限ご要望に応えられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを大切に、安心して暮らせるよう、生活のパートナーとして支える事ができるよう支援している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にもできるだけ関わりを持ってもらえるよう、適宜連絡を取り合い、共に支えていけるような関係作りをしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医への通院介助等、出来る限り以前からのなじみの関係が途切れないよう支援している。	利用者の写真と近況を添えたお便りを毎月郵送している。現在は、感染症予防の観点から面会を中止しており、窓越しに電話で会話したり、ホーム内を見てもらったりしている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での交流を通してお互い良い関係性が築けるように、必要な場面では適宜職員が介入し、支え合って生活できるよう職員が関わっている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後もこれまでの関係性を大切にしている。必要に応じてご本人、ご家族の相談や支援をするようにしている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からの関わりを大切に、ご本人の思いに寄りそい、個別性を重視してその人に合った適切な支援を検討している。	入居前の1日の食事回数や過ごし方を確認したり、ホームにおける日常生活で思いを聞き取る等して把握に取り組んでいる。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境に近い生活ができるよう、生活歴や生活環境の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	現状の環境の中でご本人がより良く暮らせるための介護計画を、それぞれの意見を反映して作成している。	介護記録アプリに蓄積された利用者の状態や、日々の申し送りの内容を勘案して計画が作成されている。計画の内容を実際のケアではどのように行えば良いのかを示す手順書が作られており、どの職員でも同じようなケアができるように、また、新しく入職した職員でもわかりやすいよう配慮されている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を職員間で情報共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しをするようにしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる社会資源があれば確認し、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診介助を実施し、その他の必要な受診についても本人やご家族に確認しながら適切な医療が受けられるよう支援している。	大館市内の受診には職員が付き添い、市外へは家族と相談しながら通院している。歯科は、必要に応じて往診を活用しながら対応している。かかりつけ薬局があり、薬の相談や配達に対応してもらっている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適宜医師だけではなく、看護職の方にも必要な相談を実施し、適切な受診が受けられるよう支援している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院があった場合は、その後の生活に支障がなく、安心して生活できるよう患者サポートセンター等の関係機関との連携やより良い関係作りが築けるようにしながら支援している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限りご本人とご家族の意向を尊重した支援を行うようにしている。普段からご本人やご家族との関わりの中で変化する思いに対応できるよう関わりを持っている。	出来る限り長くホームで暮らしたいという思いに寄り添いながら、ケアをすることとしている。非常時対応のマニュアルが整備され、それをもとに研修も行われている。運営規程において看取りについての指針を定めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時の対応についてマニュアルを作成し、全職員がいつでも閲覧できるようにしている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や隣接するショートステイと合同で水害想定での避難訓練を行い、地区の公民館へ避難する訓練を行っている。	ホームとショートステイと一緒に非常食等の備蓄をしている。事業継続計画(BCP)の作成途中であると説明がある。近隣に民家がないことや、感染症流行が懸念されることから、地域住民との協力体制の構築には至っていない。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、不適切な言葉かけを行わないように職員一人一人が注意して関わっている。	管理者は日常的に適切な声掛けについて、職員に説明している。プライバシーの確保や尊重に係るマニュアルが整備され、研修の機会を設けている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長年使用していた物を使用したり、その人の好みに合った身だしなみが出来るよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設行事等の他にもその日に何を食べたいのか利用者に聞き食事メニューを考えたり、後片付けを一緒に行っている。 食事が楽しみになるよう支援している。	季節を感じてもらえるような献立を心掛け、食べたい物を利用者に聞く等して、食事作りに反映している。利用者が、食器やテーブル拭きをしたり、食材の下ごしらえを手伝うことがある。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量を観察し、一人ひとりの摂取状態を把握している。 1人1人の状態にあった食事形態や食事環境の工夫をしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、本人の力に応じた口腔ケアの支援を行い口腔状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態の観察を行い、ご本人の状態に合った自立にむけた支援を行っている。	介護記録アプリとタブレットを活用し、水分摂取状況や排泄回数等の情報を呼び出すことで利用者の状態を容易に把握することができる。車いすを使う利用者が、トイレでの転倒を機に居室にポータブルトイレを置いた事例がある。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の観察を行い、水分摂取や運動への働きかけ等、個々の状態に合った支援を実施している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調や気分配慮し、ご本人の要望を確認しながら入浴の支援を行っている。	体調に合わせて無理強いないで、週2回を目安に支援している。入浴を好まない場合は、違う時間や別日に声掛けし対応している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご本人状態に配慮し、ご本人の要望に沿った休息の支援を行っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局と連携し、各種お薬の相談が出来る体制をとっている。薬の副作用、用法、用量等について適宜相談し確認している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人負担とならない範囲で役割を持って過ごせるように茶碗拭きや洗濯物干し等を行っていただいている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中で希望通りに外出する事は依然困難な状況であるが、なるべく気分転換や季節感を感じていただけるように施設行事を行っている。	施設行事として、夏祭り、敬老会、運動会をホーム内で開催している。月1回出前の日を決めており、鶏めし弁当や食堂のおムライス等を食事として提供している。受診以外の外出がほとんどなく、ホーム内を歩行したり、テレビを見ながら体操をしたりして体を動かす機会を設けている。	季節とタイミングを計り、徐々に職員以外との交流や外出の機会を設けることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理が出来る方は少ないため、こちらで管理しながら本人の意向に沿った支援が実施できるようにしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で季節感を感じれる共用空間であるように努めている。	レクリエーションを担当する職員が、利用者とは会話しながら季節を表す絵を描きあげ、ホーム内に掲示している。トイレや浴室等の空間に、嫌な匂いや刺激は感じられない。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性等にも配慮しながら、安心できる居場所の工夫はしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごしていた環境に近づけるように、ご本人とご家族に相談しながら居室環境を整備している。	各居室には、ホームに備え付けてあるベッドとこじんまりとしたタンスがある。家族の写真や、毎年家族から送られてくる干支のぬいぐるみ等が飾られている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に出来る範囲で自立した生活ができるように居室やトイレをわかりやすくしている。		